



歴史家
ワークショップ
Historians' Workshop

2023年度活動実績

「歴史家ワークショップ(HW)」では 1 国際発信力強化 2 知識共有・ピアサポート 3 社会との成果共有 を活動の柱とし、東京大学教育研究経費、東京大学基金等の予算によって各種イベントを企画・運営しています。詳細につきましては、ウェブサイト <https://historiansworkshop.org/> をご参照ください。

作成: 2024年4月1日

1 | 国際発信力強化

リサーチ・ショウケース Research Showcase

リサーチ・ショウケースは、英語その他の外国語で学会発表に挑戦したいと考える研究者を応援するイベントです。発表者は事前に900語前後の発表原稿を準備し、その原稿にHWの協力者がフィードバックをします。イベント当日は、専門をかならずしも共有しないオーディエンスに自身の研究を伝える8分間のプレゼンテーションと、7分間の質疑応答をおこないます。また、参加者の投票により優秀発表者に賞を授与します。

2023年度は、英語版2回、フランス語版とドイツ語版各1回をハイブリッド形式で開催し、計37名が発表者として参加しました。発表原稿に対して事前にフィードバックを行う「レビューアーズ・カレッジ」にも、過去の発表者を中心にした40名の研究者が参加し、コメントの仕方とともに、同僚・後輩との支え合いの大切さを学びました。

2016年度から大阪大学・京都大学・名古屋大学・東北大学等との共催で全国展開されてきた本シリーズは、2023年度までに総計176名の若手研究者に発表の機会を提供したことになります。

なお、本シリーズは一般社団法人東京倶楽部の助成を受けて実施しています。

【企画・運営】古川萌、ポリーナ・バルデウッチ(東京大学/歴史家ワークショップ事務局)

・第17回リサーチ・ショウケース
(2023年8月4日、発表者12名/校閲者11名/参加者28名)
司会: 古川萌 コメンテーター: バラック・クシュナー(ケンブリッジ大学)

・第18回リサーチ・ショウケース
(2023年11月30日、発表者10名/校閲者13名/参加者25名)
司会: ポリーナ・バルデウッチ コメンテーター: 島津直子(東京大学)

・第3回フランス語リサーチ・ショウケース
(2024年1月18日、発表者8名/校閲者10名/参加者26名)
司会: 秋元陽平(東京大学) コメンテーター: 王寺賢太(東京大学)

・第2回ドイツ語リサーチ・ショウケース * 東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESC)との共催
(2024年1月23日、発表者7名/校閲者6名/参加者26名)
司会: 平松英人(東京大学) コメンテーター: ルーベン・ククリンスキ(東京大学)、イリス・ハウカンフ(東京外国語大学)、田村円(中央大学) オブザーバー: 衣笠太郎(神戸大学)

17th Research Showcase
Historians' Workshop presents
4 Aug (Fri), 2023
14:00-19:00 JST
東京大学本郷キャンパス 小島ホール 第2セミナー室 (同時配信あり)

1 西角英明 Misaki Nishikado | Waseda University
The Life and Journey of Daniel, Abbot of the Russian Lands: Problems of Identity and Prejudice in Russian Medieval Travelogue

2 加藤大貴 Masataka Kato | Doshisha University
Gentry versus Nobility in the King's Council: Political Change and Conflict during the Reign of Henry VII

3 李淳峰 Chunhan Li | The University of Tokyo
The Real and the Imagined Cultural Life around the Temple of Toji in Medieval Kyoto

4 喜友名朝輝 Tomoteru Kiyuna | The University of Tokyo
European Politics and the Catholic Mission in Japan: Papal Policy and Roman Actors (1622-1640)

5 樋口龍也 Ryuya Hashiguchi | Chuo University
Maintaining the Water Environment in Victorian London: The Thames Embankment and the Metropolitan Board of Works

6 王潔琳 Jieli Wang | The University of Tokyo
The Sponsorship of Japanese Craftsmen at International Expositions in the Early Meiji Era

7 松原健司 Kenji Matsuo | The University of Tokyo
Where Sovereignty, Revolutions, and Centre-Periphery Relations Meet: Xinjiang's Responses to Afghan Diplomatic Missions to Republican China during 1919-1921

8 加藤靖子 Yuiko Kato | Doshisha University
A Shift in the "Politics of Comparison": Transimperial Perception of the Middle East in the Early Twentieth-Century Japan

9 木村善純 Kasumi Kimura | Kyoto University
Ngoma: "Translating" Folk Terms in Colonial Psychiatry and its Implication

10 種原充 Mitsuru Hobaru | The University of Tokyo
Moscow Metro in the Urban Context: a Comparative Analysis of Political Discourse in the Stalin and the Khrushchev Eras

11 クラベル・ヘルナンデス・エレナ Elena Claver Hernandez | Tohoku University
The Past as a Mirror to the Present: Japanese History in the Twentieth-Century Jidai-geki

12 溝口聡美 Satomi Mizoguchi | Doshisha University
Children of War in Search of their Roots: Indonesian-Dutch Children Born during the Japanese Occupation of the Netherlands East Indies

参加登録
8月3日(木) 17:00 JST
までに右のフォームからご登録をお願いします。

What is Research Showcase?
発表者は自分の研究のエッセンスを8分間に凝縮し、英語で発表します。
発表原稿は事前に2人のレビューアーズが下読みし、フィードバックします。
もっともクリアで理解力のある発表には、ブライズが授けられます。

The Organizers
■企画・運営
ポリーナ(バルデウッチ)東京大学 / 古川萌(東京大学) / バラック・クシュナー(ケンブリッジ大学)
■助成
一般社団法人東京倶楽部
■お問合せ
historiansworkshop.org

18th Research Showcase
Historians' Workshop presents
11月29日(水) 17:00 JST
までに右のフォームからご登録をお願いします。

参加登録
11月29日(水) 17:00 JST
までに右のフォームからご登録をお願いします。

コメンテーター
島津直子
東京大学
東京カレッジ教授
グローバルヒストリー
文化史
グローバル・外交

30 Nov (Thu), 2023
14:00-19:00 JST
東京大学本郷キャンパス 経済学研究科棟12階第1共同研究室 (同時配信あり)

多言語論文執筆シリーズ(旧フロントランナー・シリーズ)は、研究者が直面する「言語の壁」を乗り越えることを目指す場です。登壇者には様々な言語での博士論文・単著などの執筆経験だけでなく、執筆における苦労や執筆を通じて得た学び、さらには様々な言語で執筆するに至った経緯や留学・国際学会での体験などをざっくばらんにお話しいたします。

本シリーズは、大学院生たちの企画・運営・ファシリテーションによって2020年度にスタートし、2023年度は計3回開催しました。

また、昨年度ご登壇いただいたアリサ・フリードマン先生(オレゴン大学)より許可をいただき、英語論文執筆者へ向けた先生の記事「学術誌で論文を出版する——『日米女性ジャーナル』編集長からの専門的助言」(*U.S.-Japan Women's Journal* 2022)の全文を日本語に訳出し、HWのウェブサイトにて公開しました。

【企画・運営】森江建斗(京都大学)、藤本大士(日本学術振興会)、山田智輝(バーミンガム大学)、中井杏奈(東京外語大学)、村山緑(九州大学)、山下大喜(宇部工業高等専門学校)

・多言語論文執筆シリーズ16

(2023年5月13日、参加者40名)ハイブリッド

司会: 藤本大士、村山緑 講師: 保明綾(マンチェスター大学)

・多言語論文執筆シリーズ17

(2023年11月25日、参加者20名)ハイブリッド

司会: 山下大喜、森江建斗 講師: 山崎洋子(武庫川女子大学)

・多言語論文執筆シリーズ18

(2024年12月21日、参加者32名)ハイブリッド

司会: 中井杏奈、森江建斗 講師: 青島陽子(北海道大学)

 歴史家ワークショップ Multilingual Writing Series 多言語論文執筆シリーズ Vol. 16 (九州大学)



多言語論文執筆シリーズは、研究者が直面する「言語の壁」を認識し、乗り越えることを目指す場です。登壇者には様々な言語での論文・単著などの執筆経験だけでなく、執筆における苦労や執筆を通じて得た学び、さらには様々な言語で執筆するに至った経緯や留学・国際学会での体験などをざっくばらんにお話しいたします。

今回は、保明綾さんにイギリスでアカデミックキャリアを築いてきた経験を中心に、留学や海外での研究活動についてお話しいたします。どなたでも無料で参加可能ですので、ご関心のある方はぜひお気軽にご参加ください。(事前登録が必要です)。

保明綾さん
マンチェスター大学講師
専門は近代日本美術史、科学史
主に英語や人口をめぐる
歴史や方言の社会史を研究

2023年5月13日(土) 15:30~17:00
(交流会 17:30~19:30、現地参加者のみ)
九州大学福岡サテライト館工学部本館3階第一会議室
(Zoomでも同時開催中)
歴史家ワークショップ申し込み必要です



会場アドレス・参加登録はこちら

英文校閲ワークショップ

英文校閲ワークショップは、英語で書かれた参加者の原稿を対象として、「読みやすさ」とその背景にある「ロジック」を読み解き、質の高い推敲を自力で始められるようにすることを目指します。本シリーズで校閲を受けた原稿が海外の雑誌に受理されたこともあります。各地で歴史的アプローチを用いて研究に取り組む大学院生・研究者に開かれたトレーニングの機会を提供することで、比較的規模の小さな研究領域でも国際化に必要な切磋琢磨が可能となっています。

2023年度は英文校閲ワークショップを6回、そして原稿検討会を3回開催し、書籍化の作業を進めました。

【企画・運営】山本浩司(東京大学/歴史家ワークショップ事務局)、安平弦司(京都大学)

・第5期英文校閲ワークショップ

(2023年9月14日~12月7日、全6回、参加者のべ約70名、各回平均12名)ハイブリッド

・原稿検討会

(2023年4月27日~9月26日、全3回、参加者各回5名)オンライン

国際シンポジウム

歴史家ワークショップでは、国内外の研究者をお招きする国際シンポジウムを積極的に主催・共催しています。最新の歴史研究を広く共有する場をつくるとともに、若手歴史研究者が自らの関心事に沿ってシンポジウムを企画する機会も提供しています。

【企画・運営】ポリーナ・バルデウッチ(東京大学/歴史家ワークショップ事務局)

国際ラウンドテーブル 2024

“Secular” Ritual in Japanese Premodern Studies: Reconsidering the Intellectual Legacy of Futaki Ken’ichi (前近代日本史における儀礼 — 二木謙一氏の思想を再考する —)

(2023年1月21日、発表者4名 参加者40名)

ハイブリッド、逐次通訳あり

司会者: ポリーナ・バルデウッチ、発表者: 矢部健太郎(國學院大學)、モーガン・ピテルカ(ノースカロライナ大学)、コメンテーター: 赤江雄一(慶應義塾大学)



また、2020年度のHW特任研究員・黄霄龍さん(現東京本学東洋文化研究所特任研究員)が企画を担当した2021年度の国際シンポジウムの成果が、勉誠社のアジア遊学の一冊として刊行されました。

黄霄龍・堀川康史編 アジア遊学 289『海外の日本中世史研究「日本史」・自国史・外国史の交差』(勉誠社 2023年11月30日刊行)

2 | 知識共有・ピアサポート

コーヒータイトム・シリーズ Coffee Time Series

コーヒータイトム・シリーズは、研究の楽しさ、研究にまつわる悩みなどを気軽に共有し助け合える場を作ろうと、国内外の博士課程に在籍する大学院生が中心となって2020年度より企画・運営しているオンライン・イベントです。孤独になりがちな大学院生・研究者が分野を横断して集まり、アカデミアの外の人たちとも人間的なつながりを構築することを目的としています。

2023年度は、本シリーズを計2回開催しました。

【企画・運営】赤崎眞耶(モンペリエ第三大学)、大津谷馨(リエージュ大学)、櫻田宗紀(アーヘン工科大学)、北川涼太(広島大学)、新田さな子・藤田風花(京都大学)、楨野翔(ダブリン大学)、村山木乃実(日本学術振興会)

・Coffee Time Series 12「実践！アカデミアのためのアサーティブ・コミュニケーション」

(2023年7月24日、参加者12名)

司会: 村山木乃実 講師: 堀田美保(近畿大学)

・Coffee Time Series 13「文系博士課程学生の就職活動」

(2024年1月10日、参加者32名)

司会: 新田さな子 発表者: 吉田瞳、藤井碧



スキル・ワークショップ

歴史研究は個々の研究室に伝わるメソッドや個人の経験に頼りがちで、アカデミア内で共有されることは多くありません。しかし、論文の書き方、出版への道筋、学会参加時の注意点など、歴史研究者がかならず通る道に関するノウハウは、大学や所属先のちがいを超えて共有すべきものでしょう。そうした現状を踏まえ、スキル・ワークショップでは、若手研究者向けのさまざまなワークショップや講演会を企画・運営しています。

2023年度は開催しませんでした。

3| 社会との成果共有

パブリック・エンゲージメント

歴史研究者の最新の知見を社会に還元するため、参加型ワークショップや連続講座などを企画し、主に東京大学のHW支援基金を通じた寄附金によって実施しています。

2023年度は、研究者とビジネス・パーソンのあいだの架け橋を築く連続セミナー「困難の時代に歴史を学ぶ・歴史から学ぶ アcademia×ビジネス」(Warm Heart Cool Headとの共催イベント)と、エンターテイメントを通じた歴史との関わり方に着目する「ウラガワ！」を各2回開催しました。

【企画・運営】アカデミア×ビジネス: 山本浩司(東京大学/歴史家ワークショップ事務局)、山崎大祐(Warm Heart Cool Head)、ウラガワ!: 古川萌(東京大学/歴史家ワークショップ事務局)、新田さな子・吉田瞳(京都大学)

・困難の時代に歴史を学ぶ・歴史から学ぶ アcademia×ビジネスVOL.04
(2023年5月29日、登壇者4名/参加者92名)ハイブリッド
登壇者: 小島庸平(東京大学)、新井和宏(eumo)、山崎大祐 司会: 山本浩司

・困難の時代に歴史を学ぶ・歴史から学ぶ アcademia×ビジネスVOL.05
(2023年7月26日、登壇者4名/参加者73名)ハイブリッド
登壇者: 金子拓(東京大学)、竹下隆太郎(PIVOT)、山崎大祐 司会: 山本浩司

・『天幕のジャードウーガル』のウラガワ!
(2023年11月5日、登壇者3名/参加者513名)オンライン
登壇者: トマトスープ、津田小百合(秋田書店)、谷川春菜(早稲田大学/モンゴル国立大学) 司会: 新田さな子・吉田瞳

・博物館×刀剣乱舞のウラガワ!
(2023年1月10日、登壇者2名/参加者400名)ハイブリッド
登壇者: 橋本真理、平岡愛唯 司会: 新田さな子・吉田瞳



共催・協カイベント、広報活動等

(アートドキュメンテーション学会との共催)
・第149回デジタルアーカイブサロン
松岡資明(ジャーナリスト)「小さな自分史—『アーカイブズ』を伝える」
(2024年2月9日、登壇者1名/参加者40名)ハイブリッド

(Tokyo Digital Historyとの共催)
・2023年度西洋中世学会若手セミナー「西洋中世学研究者のためのデジタル・ヒューマニティーズ入門」
(2024年2月13日、登壇者4名/参加者33名)ハイブリッド

HWの取り組みをより多くの皆さまに知ってもらうため、以下のようなリーフレットを配布しています。東京大学本郷キャンパスのUTCC(東京大学コミュニケーションセンター)にも配架しています。

VISION
歴史家ワークショップのビジョン

歴史家ワークショップは、海外に広がる歴史の知識を、日本に紹介し、その価値を伝えることを目指しています。歴史を学ぶことの重要性を、広く社会に伝えることを目指しています。歴史を学ぶことの重要性を、広く社会に伝えることを目指しています。

OUR VALUES
歴史家ワークショップが大切にすること

歴史家ワークショップでは、これからの日本経済の発展に貢献するために、次の3つの価値観を大切にしています。

- 国際社会との連携
- 専門知識の共有
- 多様な文化の理解と尊重

EVENTS & PROGRAMS
歴史家ワークショップの活動の3つの柱

国際協力強化
リサーチ・ワークショップ
リサーチ・ワークショップ
リサーチ・ワークショップ

知識共有・ピアサポート
セミナー・ワークショップ
セミナー・ワークショップ
セミナー・ワークショップ

社会との連携共有
講演会・シンポジウム
講演会・シンポジウム
講演会・シンポジウム

代表挨拶

歴史家ワークショップの活動にご関心いただき、ありがとうございます。歴史を学ぶことの重要性を、広く社会に伝えることを目指しています。歴史を学ぶことの重要性を、広く社会に伝えることを目指しています。

歴史家ワークショップの活動をご支援くださるスポンサー（個人・法人）を募集しています

左側：2024年4月の活動概要
右側：2024年5月の活動概要

東京大学
歴史家ワークショップ

KEY NUMBERS & FACTS

歴史家ワークショップの実績 (2023年4月現在)

リサーチ・ワークショップ
6回
15回
10回

歴史家ワークショップの活動は多くの皆様のおかげによって実現しています

5万円以内
10万円以内
25万円以内

歴史家ワークショップの活動にご関心いただき、ありがとうございます。

その他:

2023年5月25日、EU加盟国の文化機関が連携して活動するEUNIC (European Union National Institutes for Culture) というネットワークの定例会議に歴史家ワークショップ代表の山本浩司が出席し、日頃の取り組みについて発表しました。

2023年11月18・19日、「近代世界の形成を理解する為のポリティカル・エコノミー研究会 (PoETS)」と東京大学大学院経済学研究科の共催によるイベント「Navigating Commodities: Production, Markets, and Consumption in History」に協力しました。

2024年2月26日、東海高校 (愛知県) の授業に若手研究者1名を講師として派遣しました。

2024年3月17日、歴史に関心のある人が一つの場集まって、ともに歴史を楽しむお祭り「歴史フェス」が名古屋大学で開催されました。そこで、歴史家ワークショップから3名の研究者が登壇し、日頃の取り組みについて発表しました。

メーリングリスト登録者数: 2023年4月以降169名増、計1128名 (2024年2月末日現在)

寄附への御礼

2023年7月 八十川紀夫 様 (香川県) 300,000円

そのほか、のべ41名の皆さまより総額670,500円のご寄附をいただきました (お申込ベース)。事務局一同、心より御礼申し上げます。